

DiNQL 事業の変遷

2023～24 年度

- 日本の「看護を代表する大規模データベース」を目指し、参加しやすく、使いやすくなるよう、2023 年度から「データ入力の効率化・データ利活用支援の強化に向けた機能改善」「事業参加費の無料化」「トライアル参加の開始」等、大幅なリニューアルを行いました。
- データ項目のカテゴリとして「周術期看護の状況」（2024 年度～）を追加しました。

事業本格実施

2020～2022 年度

- DiNQL 事業のリニューアルについて、複数年にわたる議論の上で方針を決定し、2023 年度から開始できるよう準備を進めました。
- DiNQL IT システムの機能改善に関する意見収集を実施し、エクセルを活用したデータ入力方法の簡略化や、院内比較機能やレーダーチャート機能の強化等を行いました。

2017～2019 年度

- データ項目のカテゴリとして「精神病床」「産科病棟」（2017 年度～）、「外来」「小児病棟」（2018 年度～）を追加しました。
- 自病院の取組みを発表・共有する機会として、DiNQL 大会を開催しました（2017～2019 年度）。
- 政策提言のためのエビデンスとして、2020 年度診療報酬改定に向けた本会の要望書（2019 年 5 月 14 日 厚生労働省保険局長宛）において DiNQL データを活用しました。

2015～2016 年度

- 全ての病院・病床を対象に事業を拡大し、本格実施となりました（2015 年 7 月～）。
- 評価指標等を追加し、一般病棟の他、療養病床、精神病床、ICU 等で DiNQL 事業を活用できるようにしました（2016 年度～）
- 電子カルテ等のデータから DiNQL データを抽出する機能が利用できるよう、本会と病院情報システムベンダーとの間で連携を開始しました。（2016 年度～）

試行事業

2013 年度～2014 年度

- 2013 年度は、IT システムの開発を行うとともに、2012 年度に策定したデータ項目の妥当性を検証し、7 対 1 入院基本料を算定している病棟を対象にデータ収集・入力を試行しま

した。

- 2014 年度は、試行事業を拡大し、10 対 1 入院基本料算定病棟等のデータ収集・入力を実施しました。
- 本事業の愛称を公募により DiNQL と決定し、ロゴマーク・キャラクターを制作しました。
(2013 年度)

2012 年度

- 有識者による特別委員会を設置し、「文献調査、看護部長へのヒアリング、有識者による特別委員会での検討」「病院へのアンケート調査」「病院でのデータ収集パイロットスタディ」のプロセスを経て、試行事業における労働と看護の質評価指標を策定しました。